

当事者の声

ひとりってさみしいかい みんながいるのに
 言いちがってさみしいかい
 外へでてごらん
 でも外へ出るとパニックツたりして
 出るのがこわい 出来ない
 電話ではしゃべれるからさみしくないよ
 私はひきこもりだけど
 また一歩って時に出来ない
 またひきこもってしまう みんなそう
 ひとりじょうずと言われても
 ひとり背を向けたまま
 孤独と言われようが 外でない私
 パニックツたりして
 やさしい人はいるが こわい
 さみしいかい みんないるのに
 悲しいくらい心のない人はいるのに
 私はひきこもり
 今ここに住んでるみんなそう
 ひとりってさみしいかい みんないるのに

曾根 朗

★ホームページでも、「そねっ詩コーナー」に掲載をスタートしました。



茂雄のカラフル漫画



太郎の漫画

お願い ~賛助会員になってください~

NPO法人そよかぜねっとは、精神しょうがいのある人たちが安心して、自分らしく、自立して暮らせる地域創りを目指し、就労継続支援B型事業「やすらぎ工房」・共同生活援助事業「そよかぜはうす」の運営、啓発・広報、地域交流活動を行っています。一人でも多くの方のご理解とご支援を願っています。

年会費：個人2千円・団体3千円
 (会費は、法人の運営費に充当されます。)
 ~ご賛同頂ける方は、下記電話までご連絡ください~
 払込用紙(手数料不要)を送らせていただきます。
 ☎ 0794-85-9990 ・ FAX 0794-60-4533

歳並みに心身衰え、障害に苦しんだ息子の不幸をきっかけに理事長から退いたが、通信編集委員続けたの要望に応えチャレンジの覚悟。

時は安倍襲撃事件に統一教会と社会の闇が浮き出てきた。詐欺まがいの心靈商法と保守政治家の「持ちつ持たれつ」の関係、洗脳され生活を奪われる被害者、他人ごとではない。か弱い私たちは何かにする。それをタネに利得を得るもの、集団が---宗教の自由は尊重されるべきですが、一人ひとりが考えたい(伊東)

編集後記

春が終わるといふ会話はあまりしないように思います。ですが、夏が来る、そして、夏が終わる…。なぜか夏は終わると感じたり言葉に出したりしているなあなんて思うのです。秋の風も少し哀愁を感じたりしますが、夏の後半の風や匂いもまた、どことなく切なく、遠い懐かしい記憶を呼び覚ますような気持になります。今は暑さの真ただ中で、夏に対する少々怒りにも近い感覚も覚えますが、後半には「終わるのか…」と、切なくなる日が今年も来るのかな、なんて蝉の声を聞きながら思います。熱中症には気を付けてお過ごしください。(北上)

そよかぜねっと通信

就労継続支援B型事業所
やすらぎ工房
 共同生活援助事業所
そよかぜはうす

〒673-0521 三木市志染町青山1丁目26番地
 ☎ 0794(85)9990 FAX 0794(60)4533
 mail: yasuragi-koubou@maia.eonet.ne.jp
 URL: http://yasuragikoubou.main.jp/

編集委員 伊東 久雄

退任にあたり14年をふりかえって

2008年、竹内省三氏を引き継いでNPO法人正副理事長を務めた、14年間支えていただいた支援者の皆さんに感謝、そのつながりで三木市関係の会議等に参加、地域福祉の現状と課題にふれた。障害者の社会から必要とされるための尽力が心に刻まれました。誰でも障害が襲い、障害とともに生きる世と人生です。

私たちの勇気が問われる時

命がけの女性活動家

女性参政権を要求したイギリスのコミック・デヴィソンは拘束され、男性に負けないため柔術を学び、参政権が公認されない世に抗議、第一次世界大戦のさなか競馬場で走る馬に身を投げて死亡。世界最強の女性判事と言われたベイダー・ギンズバーグ、87歳で亡くなるまで法廷に立ち続けた。彼女は長生きのためにバベルを握るなどストレッチに日々励み、その使命感達成のために全力を尽くし、後世に語り継がれた。また、初めて世界一周を目指した女性パイロットが空に散って永遠に帰ってこなかった(7/4 NHK新映像の世紀・バタフライエフェクト～「最強の女性米連邦判事」)。彼女らの勇気ある生涯に感動した。



幼女の時、家にあったマックスリーバン作「浜辺の乗馬」が忘れられず、第二次大戦後ナチスの略奪絵画にあったことを突き止め、訴訟して取り戻したユダヤ人トレーン(両親はアウシュヴィツ送りで殺された)、その絵は一度見たら私も忘れられない

〔←カット筆者〕 (7/1「アナザーストーリー」から)。

コロナ禍で精神科病院クラスター

都立松沢病院がコロナ感染患者受け入れに尽力。クラスターが発生のY病院は不衛生でトイレも風呂も共同部屋にない。保健所の視察もこの部屋を素通り、厚生労働省に取材しても通り一遍のきれいごとを並べるだけ、一患者は「患者はどうなってもよいのだ」と嘆く。精神科病院協会会長は「病院は社会への担保、保安の役割」と嘆く。その背景の日本の精神科病院史、精神科特例などを解説。全国で145精神科病院、4500人が感染という(22.1.15~7再放送 NHKETV 特撰「ドキュメント精神科病院×新型コロナ」)。

NHKならではのテーマと取材、二度視聴。ただ、当事者の家族、社会が患者を受け入れない現実が、結果的に浮きぶりになった。コロナ情報であふれるメディアの多くは、この事実を報じることが少ない。

「精神科病院は社会への担保、保安の役割」の精神科病院協会会長の言葉は実態を正直に述べてはいるが、治療の場であって保安の役割であってはいけないという憤りは感じられない。保健所も厚生労働省も事なかれ主義で、現場点検や発信のちょっとした勇気があればなあと痛感する。

私たちの社会の中、平凡な日常で小さな勇気が試されている時がわりと少なくないだろうか。前記の命がけの女性活動家は何かを語ると思う。(2022.7.9記)

就任にあたって(ご挨拶)

理事長 新銀 茂

この度、伊東前理事長より引き継ぐ形でそよかぜねっと理事長を拝命頂きました。微力ながら今後は当法人及び当法人事業の発展、展開のために寄与させていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

新型コロナ第7波ということもあり各地で感染は広がっている中、ここ三木市においても日々感染者が増加しております。変異株ということもあり行動制限もない中で、自分自身で自分の身を守るということが改めて求められる昨今の状況でもあります。当法人におきましても基本的な感染対策を再度徹底して、利用者の皆様方が日々通所されるのに支障がないように万全を配しているところでもございます。

ともすれば情報過多の中、その情報に惑わされないように情報の確かな把握、また対応を求められます。「(周囲に)流されずに(自らが)流れる」という言葉を大切にしながら今後とも事業を進めていく所存でございますので。当法人スタッフ共々今後ともよろしくお願いいたします。



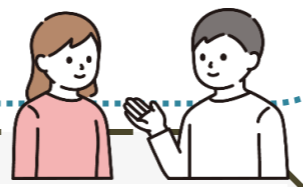
「自分を好きになること」

理事: 清水 ひとみ

この度、理事に選任されました、清水ひとみです。

私は自身の経験を社会に還元できたらと思い、学校に行きづらいお子様と親御さんの為の居場所S-BASEを運営しています。日頃、そのようなお子様と接するにあたり大事にしていることは、ありのままを受け入れることです。ありのままを受け入れてもらえたという安心感が、今まで生きづらいついていた自分を肯定することにもつながり前に進む原動力となります。

自分を認める、好きになることは、自分と他者との違いを認め受け入れることにも繋がると思っています。ほんの少しの優しさを多くの方が持てば、生きづらさをかかえる人の多くが社会で生きていけると感じています。そういう優しさを持った子供たちを社会に送り出したいと思っています。



「理事3期目を迎えて」

理事: 八木 大策

この度理事再任を承認いただき、5年目に入ります。1期目は初めて理事になったこともあり、学びの2年間でした。

2期目には事業としてグループホームが新たに立ち上がり、事業拡充の2年間でした。

3期目は法人として一層結束を固め、安定した法人運営を継続していくとともに、さらなる発展に向けてメンバー、職員、地域の皆様とともに微力ながらお役に立てればと思います。よろしくお願いいたします。



「やすらぎ工房の職員・理事として思うこと」

理事・職員: 犬飼 恵美奈

やすらぎの職員になり、10年が経とうとしています。10年の間でたくさんの職員の入れ替わりもありました。

入れ替わりの度に新しい風が入り、色々な考え方に触れることができ、私自身とてもいい勉強になりました。成長もできているのではないかと自負しています。

この度理事長が退任され、新理事長のもと新体制になります。また、新しい理事の方もおり、どんな風が吹くのか今から楽しみです。

私も現場の職員として理事をしている事に意味を持たせられるように、襟を正したいです。



写真: 堀田 航平

『夏がこんにちは』

小野市 ひまわりの丘公園にて



～ゲーテの名言から～

そよかぜはうす世話人: 中井 啓之

ゲーテ(1749年8月28日生まれ)は、ご存知の方も多いと思いますが、ドイツの詩人・劇作家・小説家・自然科学者・政治家・法律家と、広い分野で活躍した人です。たくさん名言を残していますが、私のお気に入りの3つを紹介します。

- ・涙とともにパンを食べた者でなければ人生の味はわからない。
- ・心が開いているとき、この世は美しい。
- ・空気と光と友人の愛。これだけ残っていれば気を落とすことはない。

どうでしょう。どれもなるほどと共感したり、勇気をもったりする言葉だと思いませんか……。実際に砂をかむような味のご飯を食べた経験のある私ですが、何とか開き直り、一度きりの人生を仲間と共に楽しんでいきます。

「振り返るこれまで と これから先」

理事・職員: 北上 亜矢子

法人総会を終え、新たな体制でのスタートとなりました。

振り返ってみると、コロナ感染症以前と外出や働き方など様々な点で変化が生まれたと感じます。

ですが、2000年代、2010年代、現在の2020年代を比べてみるとかなり大きな社会変化があります。日々の生活の中では意外と気づきにくいですが、振り返ると懐かしさも驚くことがあります。

変化の時は戸惑ったりしながらも、それでもしなやかに向き合う人の柔軟さと逞しさはまさに、強さだと感じます。

私たちも、法人の理念やこれまで築き上げてきた根幹の部分をしっかり維持しつつ、枝葉の部分はその時代・その時の環境、状況に合わせて柔軟に変化し、咲かせる花の色を変え、これまでも、これから10年先、30年先、それ以上も法人として必要とされることを大切に進んでいきたいと思っています。



当法人の 事業報告書・決算報告書は NPO法人ポータルサイトで閲覧できます。

NPO法人ポータルサイト | NPO法人ポータルサイト | 検索 [やすらぎ工房三木] 検索 が楽です。